

## 「夢を追いかけて」

令和4年度の修了式にあたり、私から2点話をします。

まず一つ目は、今年度、コロナ感染が一向に収まる気配を見せない中でも、毎日の学習やほぼ全ての行事、工夫をしながらの部活動への取り組みが感染対策を講じながら継続的かつ協力的に実施できたことに対して、生徒の皆さんを始め、ご家族や関係する多くの方がたに改めて感謝したいと思います。

この経験を活かし、進級後は、コロナ感染症拡大前の学校生活を少しずつ取り戻していきましょう。ゴールデンウィーク明けの5月8日からが学校や一般社会において、新しい日常の始まりと考えられています。それまでの間は、集団生活では、今までと同じように基本的な感染対策について協力をお願いします。

また、10日に卒業した、55期生の進路実現では、54期生の成果を上回る勢いで、結果報告されています。今後、令和5年度の学校生活では、ほぼすべての取り組みが復活できると考えており、新しい活動として計画している文化部活動発表会や探究活動を通じてさらに進路開拓を図っていただきたいと思います。新年度には文化部同様、運動部の全国等上位大会出場も今年以上に実現できるよう大いに躍進を遂げてほしいと切に願っています。

二つ目は3学期の始業式にもお話しした、「夢の続き」について話します。WBC野球侍ジャパンの活躍は日本中を元気づけてくれました。オリンピックもそうですが、結果だけでない、選手のひたむきな姿は生きる希望と勇気を時に我々に強く与えてくれます。あらゆる分野で目標や夢を持つことは、自分を成長させてくれる原動力です。身の回りのことに関心を持ち、いろいろな出来事を積極的・協調的に受け止めてみる。そして、今できること、やれることを積み上げていくことで、方向性が示され、協力者を得て、自分だけでは到達できないステージに導かれ目標や夢の実現が叶う。その内容や影響力は人それぞれですが、毎日の生活の中で、必ず誰もが経験できることです。後は、その目標や夢の為に、どのようなステップを設定し、追いかけていけるのかを考えることが自分の進路を決めることとなり、自分の生き方として見えてくるのだと思います。私は、大学時代に同じ志を持ち、共にプレーしたWBC日本代表栗山監督をとおして、「日常の積み重ね」の継続と「思いやりや感謝」の心を忘れず努力できる人は「目標や夢の実現に近づく」ことを改めて教えられました。栗山さんはWBCの舞台で私はこの日野高校を舞台に夢を追いかけてようと思います。皆さんもぜひ一緒に、目標や夢を追いかけてほしいです。次は皆さんの成長と活躍を期待します。

余談ですが、栗山さんは高校時代西東京NO1投手として最後の夏の大会に臨みましたが、ある都立高校に敗れています。それが、彼の原動力になったかどうかはいずれ機会があれば聞いてみたいと思います。

以上、令和4年度の修了式にあたって2点、話をしました。春休みには時間を計画的、かつ有効に活用し、自分の進級に向けて、新学年0学期としての準備を十分に行って下さい。また、自分や自分以外のすべての人や生き物の生命を尊重し、お互いが思いやりを持ち協調しあえる仲間や社会の一員として、共に前を向いて毎日の生活が送れるよう過していきましょう。新年度からは登校時間が戻ります。始業式には今日のように皆さんと対面でまた元気に、この日野高校を舞台にスタートできることを楽しみにしています。これで校長からの話を終わります。